

# グループ職員が急変対応で勉強会

## 救命の連鎖で切れ目ない対応を

城西病院、特別養護老人ホーム「ヒューマン・ハウス」、介護老人保健施設「すばる」、通所リハビリセンター「茶釜の湯」の達生堂グループ全職員を対象にした救急災害医療委員会主催の「急変対応勉強会」が6月20日、城西病院で開かれました。

この勉強会は、新入職者を主な対象とし、達生堂グループ職員として職場やプライベートなどで急変者に遭遇した時に、何らかの処置が行えるようにと実施しています。勉強会は今回で3年度目。今回も結城消防署の救命救急士をアドバイザーに招き、病院の院内急変対応チーム（JRRT）のメンバーが講師となって、36人が参加して行われました。

最初に、病院や施設でCPA(心肺停止)の急変者を発見した時には、反応の確認、通報、心肺蘇生(胸骨圧迫やAEDによる処置)を医師やJRRTが到着するまで切れ目なく行う、「救命の連鎖」が必要と強調。ダミーを使い、胸骨圧迫やAEDの使い方を学びました。

心肺蘇生法で大切なのは、CPAの人を発見したら、救急車や医師などが来るまで、決して救命措置を途切れさせないこと。救命救急士は「外では公共施設などが近くにあるとAEDを使えるケースが多いが、AEDのない状態がほとんど。救急車が到着するまで決して胸骨圧迫を途切れさせてはならない」と話しながら、胸骨圧迫やAEDの使い方などを実演。参加者は、ダミーを使って1分間に100～120回が目安で、胸部を約5cmの深さで圧迫し、戻す作業を繰り返す胸骨圧迫を体験。勉強会は今年度約5回予定しています。

平成30年6月21日

